



2021. 9. 19 五色台少年自然センターで撮影

タカサゴユリ（高砂百合）

（ユリ科ユリ属）

毎日のように歩く道端に去年は咲いていなかったラッパ状の大きな花を見つけました。この花は台湾が原産で、日本へ1924年に観賞用として入ってきました。繁殖力^{はんしょくりよく}がとても強く、1つの花から約1000個の種を風に乗せて飛ばして野生化し、今では、ほぼ日本全国で見られるようになりました。種が球根に育つまで約2年かかり、その間、花は咲きません。また、強い繁殖力^{れんさくしょうがい}の一方で連作障害には弱く、同じ場所で咲き続けると細菌が発生して枯れてしまいます。あちこちで咲いては枯れるその様子から「旅する花」とも呼ばれます。出口の見えないコロナ禍^かですが、この花のようにそろそろ旅に出かけたいですね。